

1. Check Fuse (NBA version)

lyric, composed by Pizzi Puty

2. Center World

lyric, composed by Pizzi Puty

3. Change

lyric, composed by Pizzi Puty

4. CD "inkstick2" 予告編 (北九弁講座)

5. CD "Pizzi Puty2" 予告編

# Pizzi Puty Magazine

DSWN-041101  
 © 2004 digital studio "What's new?"

**非売品**

digital studio  
 "What's new?"

<http://www.whats-new.ne.jp/>

OCPL 33213 0.4 α  
 \*track 1,2,3

OCPL 00000 0.4 α  
 \*track 4,5

13.Nov.2004 - 12.Nov.2005

O C P L : <http://www.opencreation.org/>  
 contact : [info@whats-new.ne.jp](mailto:info@whats-new.ne.jp)

JASRAC



# 11

2004 Nov.

新しい一歩を踏み出すには  
 何かを形にすべきだと思ったんだ  
 みんなが知っているもので  
 それでいて今までに無かったモノを

text : ichiro tetsuo ( digital studio "What's new?" )

### PizziPutyはいま新しい一歩をふみ出した。

「改めて自分には音楽が必要なんだってわかったんだ」数年ぶりに再会したPizziPutyは目を輝かせていた。しばらく音楽からはなれていた。そのおかげで、あのころより音楽への思いが深くなった。僕らはあのころよりずいぶん年をとった。でも、あのころの僕らよりもずっと熱くなっている。

僕とPizziPutyは、1989年黒崎のレンタルCDショップ"ストーンズ"で出会った。彼はポピュラウンを始めとしたブラックミュージックを、僕はロンドン系のポップスとエスニックをミックスした音楽をやっていた。僕はそのころからPizziPutyのファンだった。

そして、いつのまにか、僕らは会えなくなっていた。だが、僕は僕なりの、彼は彼なりの地図を作り、それぞれのスピードで歩んできた。たくさんの汗とたくさんの喜びとたくさんの涙と少しの不幸せを糧にしながら。

**「曲創ってライブ出来る事が、どんなに幸せな事なのか本当に分かったんだ。だから世の中が不可能な事だらけになっても、僕は音楽をやり続けるんだっていう気合いが満ちあふれているんだと思う」**

この数年で、作曲・録音の制作環境は進歩し、クオリティが飛躍的に向上した。そして、応援してくださる方々との出会いは、僕たちをより熱く強固にした。僕たちは、PizziPuty"一歩目"の実現に向けて、全力で進んだ。

(裏へ続く)



**PizziPutyはいままさに新しい一歩をふみ出した。その一歩目がこのCDである。**

このCDはハリケーンだ。このCDを手にかけている"あなた"をも巻き込んでいくハリケーンだ。

今はまだ小さい。だが近いうちに必ず多くの人を魅了する。きっと渦の中へより多くの人を巻き込み、加速し、うなりをあげて突き進んで行く。



音楽的側面では彼独特の力強いポップセンスに立ち返っている。ファンクとロックとポップを足して、しかも3で割っていない、まさに「美味しい濃縮」型だ。

1曲目の0分59秒目に聞こえる「唸り」とも「祈り」ともとれるようなシャウト。イントロから聞こえるアコースティックギターの少しチカラを押さえたカッティング。(5曲目0:00~0:42に流れている"Check Fuseオリジナルversion"と聞き比べて頂きたい)

2曲目の1分15秒目に聞こえる女性コーラスとの掛け合い。3曲目2分18秒目に聞こえるラジオボイスのラップetc...

「美味しい所」が数え切れないほどアチラコチラで輝いている。30秒も聞いて頂ければ耳に残り心へ響く部分が一カ所は飛び込んでくるはずだ。

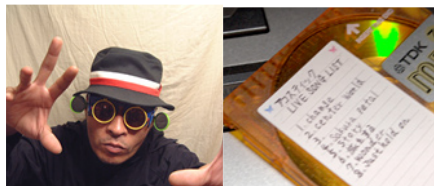
少しでも曲を作った方(未遂に終わった方も含め)なら分かって頂けるはずだが、通常なら二ヶ月毎のリリースはとても大変である。曲はできる時には幾

らでもできるのだが、出来ない時には幾ら考えてもひねってつねっても、カケラすらでてこない。またそれに加え、録音し完成させるには、凄く時間がかかる。しかし、彼は違う。創り貯めていた曲を小出しするでもなく、創れば創るほど、どんどん曲が湧き出てくる。

数日前、彼は、この6作(2ヶ月毎のリリースを1年間)だけでなく、別のCDも創りたいと言った。もう彼の気持ちは、次作品のその先へと行っているようだ。僕は、まだ一作目の立ち上げ中なので時間が取れない、となだめすかして待って貰ったが、彼の意欲は僕の収容能力を超えている。既に『癒してゴメンね』とタイトルも決まっていた録音もほぼ終わっていると言う。このシリーズの反応が高ければ、もちろんそれもリリースする。このCDを買った店のオーナーに「『癒してゴメンね』まだあ?」ってねだってほしい。

**僕は彼のハリケーンをこのCDに封じ込んだ。**

あなたも、このハリケーンに正面からぶつかって、巻き込まれてほしい。渦の中は濃く、熱い音が絡みつくパラダイスである。その気持ちよさで一緒に舞い上がってしまうだろう。



**プロフィール**

大河ドラマ

文：びちぶてい夫

第一幕

**生まれた**

**1969 誕生**

この年、ギターの神様といわれたジミヘンことジミー・ヘンドリックスが死去。ロック史上においても大きく時代が変化し始めた大変革の年。

その年にPizzi Putyは音楽の新時代の"落とし子"としてこの太陽系第三惑星・地球に自ら願って誕生する。当時は珍しい4,000gの巨大児であった(実話)

**1972 運命の子**

3歳の時Pizzi Putyは漬物屋の叔父に熱心な(っというかかなりムリヤリな)スパルタ音楽教育を受けた。ロックありソウルありGSありと何でもありだったのだが、中でもジミヘンの代表曲が全てカリキュラムに入っていた事には感謝している。なおギター等の楽器はこの時点では見た事も触った事も匂った事もない。

この時ハマっていたものは、サーカスで火を噴く得体の知らないハゲ頭のおじさんが時折見せる、怪しげな笑顔の奥にあるどこか淋しげなセクシーさだった。

そうすでにこの頃からPizzi Putyの痛快おバカファンクロックスピリッツは噴火前のマグマのように過熱気味だった。

"Pizzi Puty"の劇的な人生を六部形式でお送りします

第一幕	誕生・運命の子	(0~3歳)	11月号
第二幕	金の印・試練	(7~17歳)	1月号
第三幕	青春・持続	(20~34歳)	3月号
第四幕	ファンクマスターへの道	(35歳の春)	5月号
第五幕	栄光への階段(予定)	(36~50歳)	7月号
第六幕	ボロボロになるまで(仮)	(70~193歳)	9月号

**コラム**

**『黒崎ファンタジー』**

うら若き16の夏

ハジケきれない青春の情熱が薄暗いライブハウスにひしめいていた。ステージにはマイク片手に慣れた様子でべしゃりまくる青年が一人。「よう喋るおもしろい兄ちゃんやなあ。見た目、黒人の野球選手やけど…」そう、その司会の青年こそPizzi Putyであった。

ファンクだとかラップだとかクラブだとかアフロだとかスパンコールだとか「チエキラッ！」だとかとは無縁のシド・ヴィシヤス最高!の私にとって、Pizzi Putyはまさにカルチャーショックであるため「L・Lブラザーズかな?」と思ってしまう始末。なので彼が何らかの音楽をやっていたとしても、およそ私とは別世界の分野であり、それに

触れ、ましてやぞっこんハマるなどとは予想だにもしなかった。

それなのに、それなのに! 司会者である彼が予選通過者を発表する際に披露したドラムロールに私は意外なような、感心するような、ドキドキするような気持ちで否定できず、その瞬間に彼の住むファンクワールドへの切符を手にしてしまったのだ。

ともあれ、そんな出会いから一ヶ月後に、私はミュージシャンとしての彼の驚愕のステージを見る事になるのである。

クリスタル花子 (フリーライター)

プロフィール: 1970年代生まれ、12才でパンクに出会い心の扉を開く、現在は自分のオタクさを世界平和に貢献させる道を模索中。

**Pizzi Puty Magazine CD**

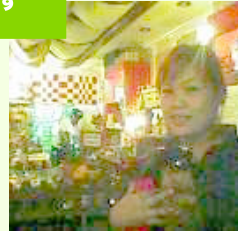
平成16年11月12日発行 (通巻1号)  
11月号 発行部数 37部

編集長○鐵尾 一郎  
編集○デジタルスタジオ・ワッツニュー  
進行・校閲○鐵尾 一郎  
撮影○鐵尾 一郎  
制作協力○ファーデーズM

発行○デジタルスタジオ・ワッツニュー  
住所○福岡県北九州市八幡西区黒崎5丁目5-48  
パークハイツ黒崎II 103 〒806-0021  
電話○093-622-4158  
080-5502-1665  
家真○ <http://www.whats-new.ne.jp/>  
電子郵便○ [info@whats-new.ne.jp](mailto:info@whats-new.ne.jp)  
発行人○鐵尾 一郎



**びちぶていを応援してくれるお店です**



**レ스토랑 レッドフリークジャム**

住所 北九州市八幡西区黒崎1丁目9-3  
電話 093-643-5881  
定休日 無し  
駐車場 無し(近くに¥100Pあり)  
アクセス JR黒崎駅徒歩3分  
ひとこと 『ポビーLOVE』